



平成24年12月15日発行 発行所 下神明天祖神社社務所 宮司 福岡三朗 品川区二葉1-3-24 TEL 03-3782-7349

天祖神社 社報

厄年

今は誕生日が来ると年を重ねますが、昔はお正月に年神さまをお迎えして神様の御魂を頂くのが一年の始まりで、その時に年を重ねると考えられていました。

そのようなわけで厄祓いの御祈願は今でも旧暦の正月までに行うのが一般的です。

厄年の頃は人生の転換期といわれ、最も健康面に気を付けねばならない時期です。お祓いを受け、良い節目となるよう祈願し、心身共に晴れやかに毎日を過ごしましょう。



平成二十五年の厄年表(数え年)

前厄	本厄	後厄
24歳 うま 平成2年生	25歳 み(へび) 昭和64年生 平成7年生	26歳 たつ 昭和63年生
41歳 うし 昭和48年生	42歳 ねずみ 昭和47年生	43歳 いのし 昭和46年生
60歳 うま 昭和29年生	61歳 み(へび) 昭和28年生	62歳 たつ 昭和27年生

前厄	本厄	後厄
18歳 ねずみ 平成8年生	19歳 いのし 平成7年生	20歳 いぬ 平成6年生
32歳 いぬ 昭和57年生	33歳 とり 昭和56年生	34歳 さる 昭和55年生
36歳 うま 昭和53年生	37歳 み(へび) 昭和52年生	38歳 たつ 昭和51年生

※数え年とは、実年齢に誕生日前は二歳、誕生日後は一歳を加えた数です。

境内照明灯

神社境内には幾つかの夜間照明灯がありますが、殆どは(株)中尾電設様より御奉納頂いたものです。中でも現社殿建設に合わせて昭和四十七年に立てられた三本の電灯は同社の奉納作業として塗装が今まで毎年施されています。参拝者、神社、地域の安全のために不可欠な明かりを提供保守頂いていることに感謝申し上げます。(宮司)

節分祭

撒き方 豆をまく人

大募集!

二月三日(日)午後四時より

参加費 大人五千円・子供二千円

千支に係わらずご参加いただけますが、へび年生まれの方はふるってお申し込み下さい!



月次祭に参列しましょう

毎月(一月を除く)一日午前七時より氏子・崇敬者の安寧を願い、月次祭を斎行しています。

月の始まりにお祓いを受け、健康で明るい生活を送りましょう。どなたでも昇殿頂けますのでお誘い合わせでお参り下さい。事前のご連絡は不要です。参列ご希望の方は直接神社へお越しください。

国民の大典と氏子の大典

宮司 福岡三朗

平成二十五年は二十年毎に行われる伊勢神宮の式年遷宮と当社社名制定三百七十年記念大祭が重なる大きな節目の年です。

「お伊勢さん」と呼ばれ親しまれている神宮ですが、そのお参りは室町時代から盛んになり、当社が内宮と同じく天照大神を祀る天祖神社となったのも二生に一度は伊勢参りと謳われた江戸初期と時代が重なります。

式年遷宮は遠く千三百年前の持統天皇四年(690)に第一回が斎行されてより戦国時代には中絶する事態にも見まわりましたが、今回の第六十二回まで続いた日本民族の大典です。正殿を始め御垣内の建物を全て新造し、御装束や御神宝なども全て新調されます。そして十月には大御神様に新殿へお遷り戴く御儀を迎えます。

それに先立ち、夏には国の無形民族文化財に指定されている「お白石持ち行事」が行われます。「お白石」とは、御正殿の御敷地に敷かれる白石のことで、宮川から集めて一つ一つ清流で洗い浄められたものです。遷宮後は何人も立ち入れない新正殿近くまで進み、それらの石を奉獻するのが「お白石持ち行事」です。この行事に参加できるのは伊勢、二見、御園の旧神領地在住者に限られています。昭和四十八年の第六十回より全国の崇敬者も特別神領民として参加出来るようになりました。当社でも割り当てられた人数に限りがありますが、参加者を募っていますのでお問い合わせ下さい。

また伊勢の「お白石持ち行事」と「式年遷宮」が行われ

天祖神社の御祭神・御由緒

天照大神 (あまてらすおおみかみ)

応神天皇 (おうじんてんのう)

天兒屋根命 (あめのこやねのみこと)

大在原総覧には「その鎮座期は不明なるも徳川六代將軍家宣の時代より社として崇拜された」とあり、正保年間(二六四四〜二六四七)、村が立会川の上流地域と下流地域とに分かれるに伴い、社も分立し、現在の社名が制定されたと云われています。昭和四十八年に再建された御社殿前には、御神木である榎(かや)の大木(区保存樹・第三号)、区内最大の狛犬を有します。境内社の稲荷社前に、小規模ながら齋田があり、収穫した稲穂は例祭の神饌として本社、稲荷社に献じられています。



各種御祈願・行事参加
地鎮祭・神嘗祭の
お申込み・詳細のお問合せは
天祖神社社務所まで
電話:03-3782-7349
WEBサイトからのお問合せも可
※年末年始のメールでのお問合せは
社務の都合上お返事が遅くなる場合があります。
お急ぎの方は必ず社頭または
お電話にてお問合せください。

氏子区域: 二葉一丁目、二丁目、三丁目(17〜21)/ 豊町三丁目、豊町四丁目(1を除く)
戸越五丁目(1, 2, 14, 15を除く)/ 大井二丁目1の一部

〒142-0043 東京都品川区二葉1丁目3-24

お問い合わせ(天祖神社社務所): 03-3782-7349

下神明天祖神社 HP [http:// 天祖神社.jp](http://天祖神社.jp)

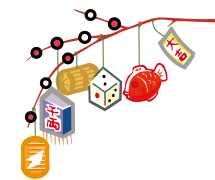
下神明天祖神社

る間の九月には当社と隣の上神明天祖神社で社名制定三百七十年記念大祭が斎行されます。由緒は諸説有りますが、私は御祭神に一つの答えがあると考えています。

都内には天祖神社・神明社・神明宮など天照大神をお祀りする神社は百社ほどありますが、応神天皇(八幡さま)と天兒屋根命(春日さま)を副祭神としてお祀りしているのは上下の天祖神社だけです。この三柱は正直・清浄・慈悲という中世的徳目を表すもので三社託宣信仰として近世になり全国に根深く浸透したとされています。荏原区史にある「その時代は不詳であるが、上・下蛇窪の分立は正保年間である」という内容はお祀りした御祭神から考察しても時代的に合致しており、正保年間(1644)に天祖神社という名の神社が両村に発祥したことは事実であろうと考えられます。

そのような理由で正保三十四年(1983)にあたる昭和五十八年(1983)を両社の社名制定三百四十年と定め、以来十年毎に記念祭が行われています。今回の特別行事として、互いの大祭式に互いの神社の宮司を宮使として招き奉祝祭詞を奏上するほか、稚児行列や七町会神幸祭及び上下分村記念行事が斎行される予定で、現在は行事ごとに委員会を設けて実施に向けての協議が行われています。

祭礼の詳細や稚児行列の申込みについては夏前にお知らせできると思いますが、氏子の心の残る意義ある行事になるよう努めますのでご期待下さい。



形代と御神札

下神明天祖神社では毎年、十二月三十日に年越大祓神事を執り行っています。一年間の悪事災難や、知らず知らずのうちに犯した罪穢れ（つみけがれ）を祓い清め、新年の幸福と繁栄を祈願する神事です。参列御希望の方は、当日境内にて受付致します。

大祓とは、罪穢れを祓い清める神事です。六月の大祓を夏越の大祓、十二月の大祓を年越大祓といいますが。神道では人はもともと清く綺麗な心を持っていると考えます。しかし、生活している間に曇り、知らず知らずのうちに穢れに触れ罪を犯し、清い心から遠くなってしまうため、祓いによって本来の綺麗な心にかえすのです。大祓神事では、人の罪穢れを移した紙の人形（形代といいますが）を身代わりに清めます。形代で身をなでて息を吹きかけるのは身体と心の穢れを追い出すことを意味しています。全ての穢れを形代に移し、清々しい気持ちで新しい年を迎えましょう。



形代は二枚入っています。一枚を男性、一枚を女性に分けるなどとして。ご家族全員のお名前、年齢を記します。息を三度吹きかけ、形代で体をなでて心身の罪穢れを移します。形代が手元がない方はお知らせ下さい。神社よりお届け致します。

年の暮れには大掃除をして新しい年を迎える準備をしますが、同様に神棚も綺麗にして新しい御神札をおまつりしましょう。

天祖神社では、毎年年末に氏子の方々へ新年の御神札を頒布しております。年内にお受けになり、清らかな心で新春をお迎えください。古い御神札は神社でお焚き上げいたします。一年間お守り頂いたことに感謝申し上げますから神社へお納め下さい。

お焚き上げについて

- お焚き上げできるものは御神札、お守り、神社で授与しているものです。
 - お人形・ぬいぐるみはお預かりできません。
 - ダルマはお受けになったところへお納めください。
 - 金属、ガラス、陶器などの燃えないもの、またビニールなど燃やすと有害なものは外してお持ちください。
 - 延焼の危険がありますので、紙(特に新聞紙)には包まずにお持ちください。
- 伝統行事を未永く続けるためにも、ご協力をお願いいたします。ご不明な点がございましたら、社務所までお問い合わせください。

天祖神社では一年の始まりに『新年祈願祭』（昇殿参拝）にて、家内安全、商売繁盛、社運隆昌、厄除け他諸祈願を承っております。皆様が清新なるお心で、新春をむかえられますことをご祈念申し上げます。

昇殿参拝

事前のご予約が必要となります。(お電話でのご予約可)

昇殿参拝された方には、木札に祈願・氏名(会社名)を記しお渡ししております。

仕事始め祈願(会社団体祈願)

商売繁盛・社運隆昌・事業発展
社内安全・交通安全・開運招福・他
式の終わりに代表者発声により神酒拝戴を行います。

個人祈願

家内安全・商売繁盛・初宮詣・厄年祓除
交通安全・車禍い・身体健全・病氣平癒・良縁成就
開運招福・合格祈願・安産祈願・心願成就・他



昇殿参拝のご予約は 天祖神社社務所まで
電話 03-3782-7349

※多少お時間が前後する場合がございますので予めご了承下さい。

鎮守さま

♪村の鎮守の神さまの、今日ほめでたいお祭り日♪と歌われる戦前の小学唱歌は有名ですが、当社の一の鳥居横の社名碑にも「鎮守 天祖神社」とあり、村(下蛇窪村・現在の氏子範囲)を守るために鎮まる神さまを祀る神社であることが示されています。それと同時に「村の鎮守」とは村人達の手で築造し、守り続ける神社、また村が所有する神社、との意味もあります。

町会組織が大きくなった村を分けたものなので、現在も神社行事には深く関わっている事が多いのも頷けます。また、当番町会制度や年番制度も鎮守さまをお守りする為の先人達の知恵の一つで、この先もそれらの思いを繋いでいきたいものです。

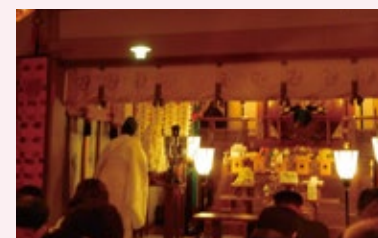


家庭の行事にしましょう。

年越大祓神事 茅の輪くぐり



神社境内の茅の輪



年越大祓神事



毎年行われている犬吠塚での形代流し神事

どなたでもご参列頂けます。大祓神事は十二月三十日午後七時に斎行いたします。形代は神事の始まる前までに初穂料をそえて神社にお持ちください。天祖神社では古式にのっとりお祓いをし、毎年七月初旬に形代を大海原に流す形代流し神事を執り行っています。

Q. 渡御祭とは

各地の神社では一年や何年かに一度の祭りに伴い、神輿や山車の渡御が行われます。この時には神社にお鎮まりになっている神様が神輿や山車にお遷りになり、氏子の手により氏子地域を巡行していきます。この祭により神と人々が一体となり、人々は祭りを通じて活気を取り戻し、神様もこうした人々の姿を見て喜び、渡御する地域の各家庭に御神徳(神様の働きや力)を与えてくださると信じられています。

渡御祭の形はそれぞれの神社により性格も異なります。一つには神様が初めてその神社に迎えられ、祀られるようになった事跡や歴史的な事実を繰り返して行くもの、氏子地域や神様に縁故のある地を巡るもの、神慮を慰めるために行うものなどに分けられます。日本人はよく祭り好きであると言われますが、各地の祭りを見ると祭りが地域の活性化に果たす役割が、今も変わらず受け継がれていると感じます。